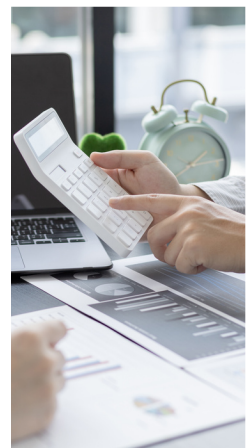


「原価率」の計算方法とは？ 目安と改善策も解説



原価率＝「製造業の売上に直接かかった費用」

「原価率＝価格に対する材料費の比率」ではありません。
もちろん、材料費も原価率に含まれますが、原価は直接費（材料費・労務費・経費）、間接費（材料費・労務費・経費）の6つから集計されます。

さらに、人件費は製造部門で直接かかった費用でなければならず、経費には光熱費や機械費も含まれるため複雑です。

つまり、原価率を正確に求めるには、日ごろからの数値入力をいかに正確にできているかがポイントということになります。

しかし、そこまでして原価率を求める理由は何なのでしょう。

その理由は、原価率を原価見直しの指標にして、より大きな業績を上げるためです。

売上に対して、原価がどの程度を占めるのかを把握できれば、より大きな企業体を目指すことも可能です。

製造業の原価率計算に必要！2つのステップとは？

製造業の原価率は、以下の2ステップで求めます。

1. 製造原価を計算
2. 製造業の原価率を計算

ステップ1. 製造原価を計算

製造原価を求めるための計算式は以下の通りです。

製造原価＝総製造費用＋期首の材料・仕掛品の棚卸高－期末仕掛品・未使用の材料費

製造原価を求めるための数値管理には、エクセルを使用している企業が多く見受けられます。

しかし、エクセル管理には属人化や労働時間の増大につながる恐れがあるので注意が必要です。

ステップ2. 製造業の原価率を計算

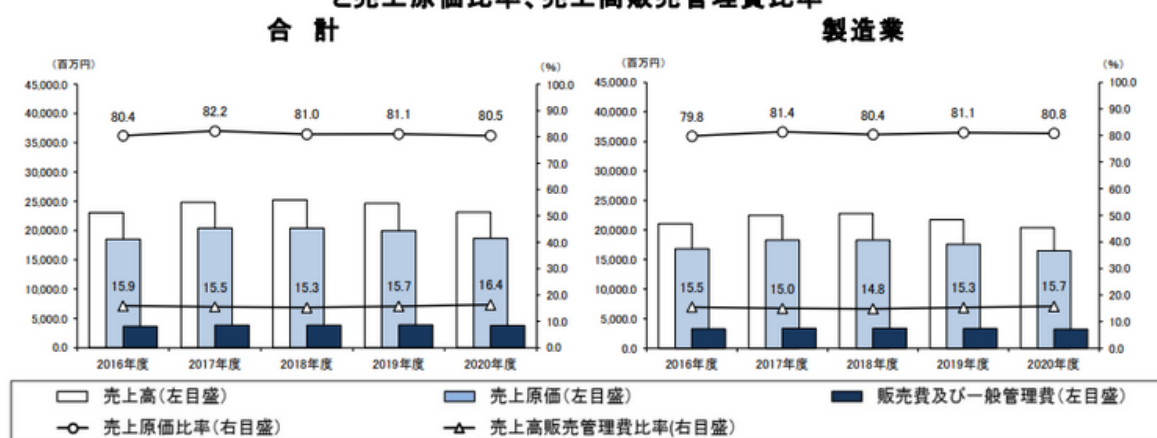
原価率の計算式は以下の通りです。

$$\text{原価率} = \text{製造原価} \div \text{売上高} \times 100$$

製造業の原価率は、どの値を目安にしていのかを疑問に感じる方も多いでしょう。

経済産業省の「2021年 企業活動基本調査」によると、製造業の原価率は80.8%でした。

図表2-5-① 合計及び製造業の一企業当たりの売上高、売上原価、販売費及び一般管理費と売上原価比率、売上高販売管理費比率



製造業は、他業種と比較して原価率が高い傾向にあります。

これは、機材への投資や工場の運用費などが多く、減価償却費も考慮すると、経費削減が困難なためです。

原価率が高い製造業ですが、逆を言えば、製造業には原価率を改善する余地があるということ。

では、原価率を改善するために具体的に何に取り組めばいいのでしょうか。

製造業の原価率が高い！5つの改善策とは？

製造業の原価率の代表的な改善策は、以下の5つです。

1. 在庫管理を最適化
2. 製造にかかる仕入れ先の見直し
3. 製造に必要な仕入量の見直し
4. 生産ロット上の不良を減らす
5. 正確な原価の把握

上記の各改善策の内容を、詳しくみていきましょう。

改善策1. 在庫管理を適正化

製造業の在庫は、素材・仕掛品・完成品の3種類があります。

特に、調達リードタイムが長い部品が欠品した場合に備えて、過剰在庫を抱えるケースでは要注意です。

需要変動により、製品が在庫として残ってしまうリスクが想定できるためです。

さらに、保管する環境によっては、劣化する可能性がある素材にも注意しましょう。

それぞれの保管状態・在庫数を、的確に管理できる体制を、いかに築き上げるかがポイントです。

改善策2. 製造にかかる仕入れ先の見直し

企業によっては、仕入れ先を固定化しがちなケースが見受けられます。

しかし、昨今の世界情勢や物価高の影響もあり、材料費・輸送費の向上が企業への直接的なダメージとなっており、仕入れ先の見直しを余儀なくされるケースも増えてきています。

確かに、仕入れ先の再検討は時間と手間を要し、生産管理の業務を圧迫しかねません。

しかし、素材をより安く入手できるに越したことはありません。

全体の製造量が減っても、素材が安ければ売上維持も可能でしょう。
できる限り生産管理の業務を効率化し、仕入れ先を再検討できる余裕を作るべきです。

改善策3.製造に必要な仕入量の見直し

素材の過剰仕入れは、リソースを活用しきれず、需要予測にズレが生じているケースに見受けられます。

季節ごと、製品ごとに売り上げた量を記録・蓄積し、データ分析を行いましょう。

それにより、需要予測がよりの確になります。

蓄積したデータを分析・活用するためのシステムを導入するのもおすすめです。

マンパワーの削減にもつながり、より効率的で確実な需要予測を実現します。

改善策4.生産ロット上の不良を減らす

生産ロット上の不良品は、機械トラブル・不適切な業務フロー・ヒューマンエラーなどが原因です。

不良品の原因解明・改善には、工場を可視化し、3M（ムリ・ムダ・ムラ）削減が最も効果的。

工場を可視化し標準化していれば、いつ・どこで・なぜ・何が起きたのかが一目瞭然なためです。

しかし工場の可視化ができていない場合、不良品が発生する原因がわからず、手をこまねているしかありません。

中でも、ヒューマンエラーは解消しにくく、原価率という観点以外から見ても大きな課題です。

改善策5.正確な原価の把握

これまで挙げた改善策を実現させるためには、まずはそれぞれの製品にかかる正確な原価を把握することが不可欠です。

例えば、同じ製品であっても、1ℓだけ製造する場合と、100ℓ一度に製造する場合ではかかる経費や時間が異なるはずです。

材料費、外注費、機械費、労務費等の製造原価を細分化することが、正しい原価の把握と分析の第一歩となります。

IFS Cloudで正しい原価の把握と原価率の改善をサポート

弊社が提供している製造業に特化したERP「IFS Cloud」には、正しい原価の把握と原価率の改善をサポートする様々な機能が標準で搭載されています。

IFS Cloudにおける原価計算は以下の機能を持っており、製品ごとに細分化された正しい原価をリアルタイムで把握することができます。

原価計算の機能

- ✓ 自在な原価積上げ
- ✓ BOMのどこからでも追跡できるドリル・ダウン機能
- ✓ 原価差異分析
- ✓ 損益分岐点分析や時系列原価分析
- ✓ 在庫品原価履歴
- ✓ 原価積上げ用グラフィック支援
- ✓ 原価報告書
- ✓ 製造オーダー別原価分析

IFS Cloudでの原価計算の仕組みや経営判断への活用方法については、[「IFSソリューションによる製造原価の把握および利益率の見える化を販売戦略と経営判断へ活用～中小企業のERP導入事例から～」](#)のウェビナーで実際の導入事例と併せて詳しく解説していますので、是非ご覧ください。

正しい原価の把握は、

1. 製造工程を見直して効率化やコストダウンを図る
2. 不採算製品を統合して製造ロットや在庫の最適化をして利益率を向上させる
3. 利益率の高い製品中心に販売戦略を策定する

など、世の中の変化に柔軟に対応しながら、的確な経営判断を行える企業運営の基盤となります。

原価率の改善にお悩みの方へ

原価率を改善するために、以下3つのポイントをお伝えしました。

1. 製造業の原価率は、他業種と比べて高い
2. 原価率の改善に有効な5つの方法
3. 正しい原価の把握にはERPの活用が近道

弊社では、世界中で利用されている製造業に特化したERP「IFS Cloud」を、業務改善ツールではなく、DXを基盤とした経営ツールとしてご提案しております。

製品の詳しいご紹介等、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせはこちら



チェンシージャパン株式会社

神奈川県横浜市西区高島1-2-5
横濱ゲートタワー3F

TEL:045-900-0309

Mail:sales_japan@ichengsi.com